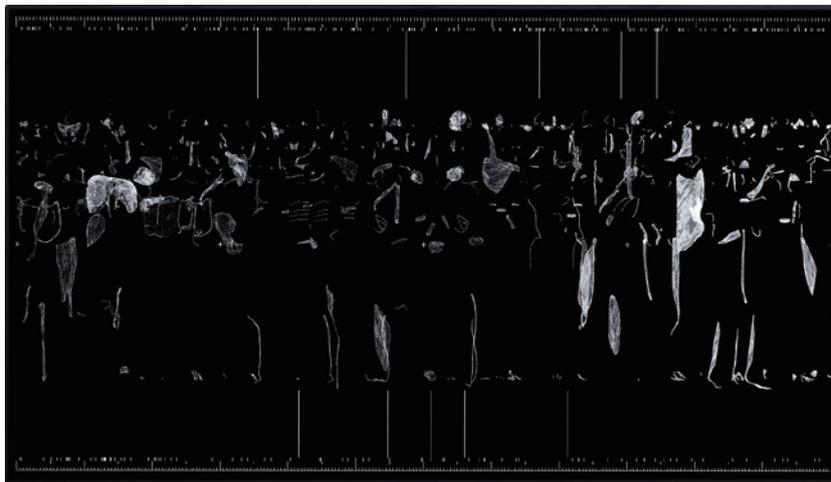


特別展示
池田亮司



2023年11月18日(土)～2024年5月12日(日)

ミクロからマクロまで、あらゆるスケール世界が視覚と音響で展開——
ビジュアルアーティスト、作曲家として活躍する
池田亮司が見せる「アート×新しいテクノロジー」

展覧会名	特別展示：池田亮司
会期	2023年11月18日(土)～2024年5月12日(日)
休場日	月曜日(ただし1月8日、2月12日は開場)、 12月29日～1月1日、1月4日、1月9日、2月13日、4月30日、5月7日
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
会場	金沢21世紀美術館 展示室2
料金	一般 450円(360円) 大学生 310円(240円) 小中高生 無料 65歳以上の方 360円 ※本展観覧券は同時開催中の「コレクション展2：電気・音」との共通です。 ※()内は団体料金(20名以上)
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
協力	株式会社バッファロー
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL: 076-220-2800

本資料に関する
お問合せ

金沢21世紀美術館 企画：長谷川祐子 担当学芸員：高木遊
広報担当：落合博晃、石川聡子
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<https://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会概要

金沢21世紀美術館では、今年のテーマ「アート×新しいテクノロジー」にあわせ、「特別展示：池田亮司」を開催します。国際的に活躍するアーティスト・作曲家である池田亮司は、緻密なリサーチに基づいた没入型のコンサートやインスタレーション、また舞台作品やパブリックアートなど、多岐にわたる活動を展開しています。2000年代初頭から自然科学領域のビッグデータを創造的に扱うことにより、この世界を新たな視点で認識するための表現を追求してきました。本展では、未発表を含む映像作品23点から構成される新作インスタレーション《data.gram [n°6]》が展示されます。「data.gram」は、池田による大規模なオーディオビジュアルインスタレーション「data-verse」三部作(2019-2020)を再構築した新シリーズであり、目に見えない素粒子のミクロな超微視的世界から、観測可能な宇宙の果てのマクロな超巨視的世界まで、自然界のさまざまなスケールを探求する試みです。今回の新作を通して、自然界の調和と混沌に対し、私たち自身の知覚や認識が試される良い機会になることでしょう。



展覧会の特徴

データを駆使する池田亮司の作品展

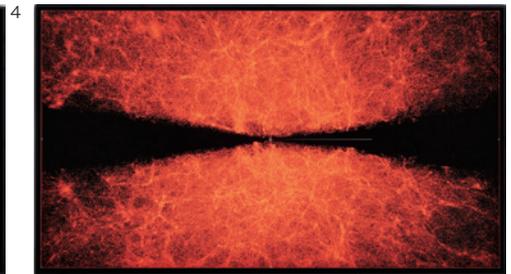
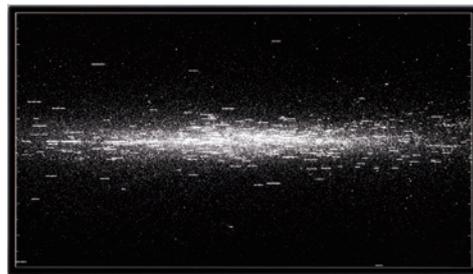
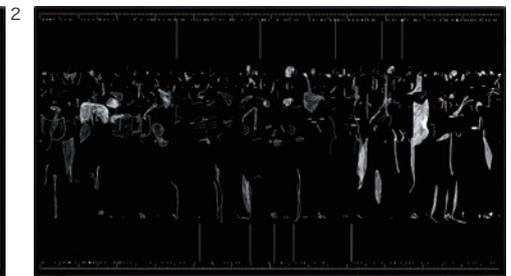
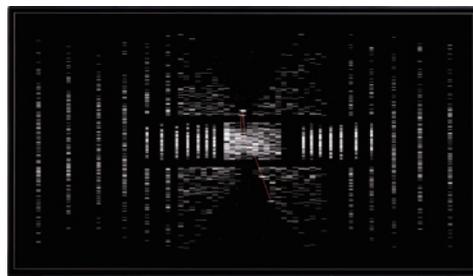
池田亮司は国際的に活躍するアーティストであり、かつ作曲家でもあります。彼は自然科学領域のビッグデータを視覚化・音響化へと転換することによって、この世界を新たな視点で認識するための表現を追求してきました。今回の展示作品では、CERN(欧州原子核研究機構)、NASA、ヒトゲノム計画など、様々な研究のオープンソースから収集された膨大な自然科学データを創造的に再構成することによって、素粒子から観測可能な宇宙の周縁まで、私たちの世界における目に見えるものと見えないものの間を横断する自然界のあらゆるスケールの世界が顕在化されます。

新作オーディオビジュアルインスタレーション

今回の新作インスタレーションは、23点の映像作品で構成されています。それぞれの映像作品は、ミリメートル以下のピクセルで非常に精緻に描写され、超微視的な表現を可能にしています。また、全体は音楽の管弦楽アンサンブルのような手法で編成されます。23点の映像作品それぞれが自然界の異なるスケールに対応し、すべてが並列に配置され、すべてが正確に同期し合っ、全体が一つの楽曲のように調和すべく構成されています。ミクロからマクロにいたる様々なスケールの間を、私たち自身が実際に移動し横断できるような体験になることでしょう。

マイクロからマクロ～三つの異なる世界の探求

新作インスタレーション《data.gram [n°6]》は、三つの異なるスケールの世界を描きます。第一に、人間の目には見えないマイクロな自然の世界は、量子状態の素粒子から、原子、分子、ウイルス、DNA、タンパク質、細胞にまでわたります。第二に、私たち人間をとりまく世界は、脳や身体から、都市、気象、インターネット、航空交通、人工衛星まで地球規模にいたるスケールです。第三のマクロな自然の世界は、地球から太陽系、銀河系、超銀河団、そして観測可能な宇宙の果てまでを描写します。各スケールの世界は、膨大な科学データを通して極めて精密なコンピューター・プログラミングによって生成されており、私たちの存在を支える自然の、その隠された側面を包括的に捉えます。



1～5.
OCT 14 - NOV 12, 2022
TARO NASU, Tokyo, JP
data.gram
Photo by Keizo Kioku
materials: LED display, computer
dimensions: W71.7 x H41.6 cm
concept, composition: Ryoji Ikeda

作家プロフィール

池田亮司 (いけだ・りょうじ)

1966年岐阜県生まれ、パリおよび京都府在住。国際的に活躍する作曲家／アーティストとして、電子音楽の作曲を起点としながら体験としてのアートを提示する。音やイメージ、物質、物理現象、数学的概念などの様々な要素の精緻な構成を用いて、見る者／聞く者の存在を包みこむライブ・パフォーマンス、インスタレーションを発表している。2018年には自身のレーベル「codex | edition」を立ち上げた。東京都現代美術館(2009年)、パーク・アベニュー・アーモリー(ニューヨーク、2011年)、ポンピドゥー・センター(パリ、2018年)、弘前れんが倉庫美術館(2022年)など世界各地で個展を開催するほか、あいちトリエンナーレ2010(名古屋、2010年)、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ(2019年)など数多くの国際展に参加。



© Ryoji Ikeda Studio

広報用画像

画像1～6を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。

https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。